

国産純粋種豚改良協議会 令和 6 年度 通常総会が開催されました

令和 6 年 12 月 18 日(水)、NOC プラザ(新潟県新潟市)にて開催されました。
(一部 WEB 参加)

第 8 回目を迎えた総会では、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 畜産研究部門食肉用家畜研究領域の石井領域長並びに農林水産省畜産局畜産振興課の和田畜産技術室長(畜産振興課 松田係長代読)から開会のご挨拶をいただいた後、令和 5 年度の事業実績及び収支決算に関する報告、監査結果の報告、令和 6 年度事業計画及び収支予算についての説明があり、全会一致で承認されました。

また、協議会規約第 6 条の改訂について承認後、任期満了に伴う役員改選が行われ、第 5 期役員候補が承認されました。

第 5 期役員候補

役 職	氏 名	所 属	
会 長	木島 敏昭	有限会社 木島農場	新任
副会長	独立行政法人 家畜改良センター 理事	独立行政法人 家畜改良センター	再任
副会長	桑原 康	農事組合法人 富士農場サービス	新任
副会長	京都府養豚協議会		新任
監事	木全 誠	株式会社 シムコ	新任



司会担当は株式会社
山田 B.F の山田文晴
氏(右)、議長担当は
有限会社星種豚場の
星正晃氏(左)。



その後、協議会専用データベースシステムによる協議会遺伝的能力評価、種豚ランキングの公表状況の説明と新たな取り組みとして、令和 7 年度に協議会及び協議会認定銘柄豚キャンペーンを実施することが承認されました。最後に、独立行政法人家畜改良センターの犬塚理事よりご挨拶をいただき、閉会となりました。

冒頭にご挨拶を頂いた農研機構・石井領域長からは、協議会も今年で設立 9 年目を迎え、事業成果も出てきている一方、国内外の純粋種の維持供給は減少傾向にあり、特に海外からの純粋種豚の生体、精液導入はブリーダーの減少、アニマルウェルフェア、国際紛争等の影響もありまして今後困難な状況になることが見込まれているからこそ、オールジャパンでの取り組み強化を提言としていただきました。

また、農林水産省和田畜産技術室長からは、本年は農政の憲法といわれる食料・農業・農村基本法が四半世紀ぶりに改正され、本年6月に公布施行されことに伴い、基本法に基づき作成する食料・農業・農村基本計画の他、家畜改良増殖目標、養豚農業の振興に関する基本方針、家畜排せつ物の利用の促進を図るための基本方針などの見直しに向けて、持続的な豚肉生産及び地域社会の維持が可能となるよう検討を行っていること、特に豚の改良増殖目標の畜種別検討会においては国産純粋種豚改良協議会からも委員として参加、議論してもらっており、頂いたご意見も踏まえながら目標には中期的な展望をしっかりと示し、養豚業界の発展に資するものとなるよう尽力してまいりたいと考えていますので、協議会におかれましても将来の豚改良の方向性や養豚産業のあるべき姿などについてご意見を頂戴したい、とご挨拶をいただいています。

総会閉会のご挨拶をいただいた家畜改良センターの犬塚理事からは、本日の総会においても国産純粋種豚の遺伝的能力評価を用いた改良の推進が重要であることが浸漬されたと思っています。

家畜改良センターでは協議会のデータベースシステムを用いて2022年1月から四半期ごとに年4回、遺伝的能力評価を実施しております。直近の評価では177,000件の記録データを用いて評価を行い、繁殖形質や産肉形質の遺伝的能力評価値及び種豚ランキングの情報を提供しています。会員の皆様におかれましては家畜改良センター情報提供している遺伝的能力評価、種豚ランキングの自農場の選抜淘汰や外部からの種豚導入の一助として大いに活用していただきたいこと、また、信頼性の高い能力評価を行うためには農場間の血縁構築と多くの正確なデータが必要となってくることから、遺伝的能力評価値の信頼度向上を図るため、より多くのデータの提供と共に引き続き協議会内の種豚や精液の交流の促進を進めるよう提言いただきました。